

東久留米市立東中学校 第３学年

教科	児童・生徒の学習状況分析 更に工夫したい点	具体的な授業改善策	評価・検証方法、目標値 評価（◎、○、●）
国語	・自分の考えや思いを書いて表現する力が身に付いていない。 ・文字を正しく丁寧に書く習慣が身に付いていない。	・短作文や感想文など積極的に用い、主体的な書く活動を通して、「書く能力」を上げる。 ・「書写」の時間を中心に文字の構造や効果的な表現の工夫など、もう一度１・２年の学習を振り返る。	・短作文や感想文を学期に２回以上行い、Ａ評価の生徒を３割以上にする。 ・行書の作品評価においてＡ評価の生徒を３割以上にする。
社会	・資料の読み取りやグラフの作成についての理解が浅く、資料を使って表現する力が不足している生徒が見られる。 ・提示された資料を基に、自分の考えをまとめ、言葉で説明するのが苦手な生徒が多い。	・発表の機会を増やし、教科書の資料の読み取り、発表させたり、ワークシートに記入させたりする。 ・自分の考えや意見を文章にまとめさせる機会を増やすとともに、失敗を恐れずに発言させる工夫をする。	・ワークシート・レポート等で、資料の読み取りやグラフの作成を要する課題を多く設定する。（中単元に１回） ・ワークシート・レポート等で、資料を基に自分の考えを説明させる課題を多く設定する。（中単元に１回）
数学	・問題文から課題解決に必要な内容を取り出し、数学的に処理・表現することが苦手な生徒が多い。 ・課題解決に向けて、今まで学んだ知識や技能を根拠にしながら、筋道を立てて考えることが苦手な生徒が多い。	・文章の大事なポイントに下線を引かせる。 ・関数や図形では必要な情報を図に書かせる。 ・解決に必要な知識を確認しながら、何が分かれれば数学的に処理できるかをノートに書かせるようにする。	・ワークシートや問題集で、大事なポイントに下線を引かせ、必要な情報を図に入れさせる。（正しく引ける生徒７０％以上） ・思考の過程を、根拠を示しながら表現できる生徒５０％以上。
理科	・何のために理科を学習するのかを理解していない生徒が多く、意欲的ではない生徒が複数いる。 ・科学的に思考することの大切さを理解していない生徒が複数いる。	・今学習していることが、世の中の何とつながっているのかを意識して授業をおこなう。 ・科学的な思考を必要とする設問を授業の中に多く取り入れていく。	・レポートやワークシートにおいて、学習していることの歴史的背景や身近な現象とのつながりを記載させる。 ・レポートやワークシートにおいて、結果からどのようなことが考察されるかを記載させる。
音楽	・歌唱・リズム創作に対して苦手意識を持っている生徒がいる。 ・楽曲の構成や作曲者の意図を考えて表現していく力や積極性を伸ばしていく。	・良かったところをお互いに指摘し合う場面を設けることで自信がもてるようにする。 ・作曲者の意図や楽曲の仕組みを理解しやすいようにワークシートを工夫する。	・実技テストで積極的に表現しようと判断できる生徒７０％以上。 ・ワークシートを点検し、理解していると判断できる生徒７０％以上。
美術	・集中して黙々と制作に取り組むことができる。自分の表現方法をより追求できるよう、環境整備を工夫する。 ・制作活動のみならず、生活や社会を豊かにする美術の働きについて考え、ものの見方や感じ方を深めることが課題である。	・材料や用具に触れ合える機会を設け、特性を理解させ、自分の表現方法の幅を広げられるような指導を行う。 ・制作活動と鑑賞活動を組み合わせながら、生活や社会と美術を関連付けてとらえることができるようにする。	・美術室や校内掲示の工夫を行う。（学期に２～３回） ・題材や学校行事に絡めた鑑賞を行い、ワークシートを記入させる。 ・振り返りカード（毎時間）
保健体育	・意欲的に取り組む生徒が多い。また、技能向上への関心が高いので個々の学習の課題を確立させ、目標達成につなげていく。 ・運動の特性を理解することはできている。その知識を実践で発揮することが課題である。	・学び合いの場を設け、お互いにアドバイスし生徒が主体的に考える授業になるよう、わかりやすい学習カードの作成や場の工夫を行う。 ・個に応じた具体的なポイントを提示することで、課題解決に向けて身に付けた知識を実践につなげることができるよう指導を行っていく。	・学習カードやノートの点検（月１～２回） ・授業観察（毎時間） ・単元（小）テストの実施（学期に４回程度） ・学習カードやノートの点検（月１～２回）
技術	・作品見本を参考に作業手順、作業方法を理解して取り組むことが苦手な生徒が一部いる。 ・コンピュータを利用したマルチメディアの活用を通して、各時間のねらいや評価基準を明確にし、３つの観点をバランス良く評価できるように配慮する。	・作業ポイントごとに説明を入れ、取り組みやすいようにする。 ・授業時にねらいや観点を話し、ポイントごとに説明を入れ、取り組みやすいようにする。	・作業行程ごとに課題の点検をする。 ・単元毎にレポートをまとめて発表させる。
家庭	・作成に意欲的に取り組んでいるが、自分なりに工夫が見られない生徒がいる。	・計画的に作業に取り組めるように作業の流れ指示する。 ・いろいろな縫い方を組み合わせで縫うことが	・製作過程で、工夫点をワークシートに記入する（自らイメージして製作する生徒生徒７０％）
外国語	・英語の知識を問う場面で、日本語に合う適切な英単語を書ける生徒の割合が少ない。 ・英語の学習に積極的に取り組んでいる生徒は多いが、学習した英単語や文法事項の中から、場面や状況に応じたものを選び取って表現する経験が不足している。	・ペアやグループでの活動を通して、学習した単語を繰り返し復習する機会をつくる。また、家庭学習と授業内容を結び付けて提示する。 ・具体的な場面や状況を想定した英作文や、表現活動を用意し、授業で行っていく。 ・ねらいを明確化した表現活動を取り入れる。ワークシートを段階的なものにし、低位の生徒でも取り組みやすくする。	・単元テストや単語テストを定期的の実施する。 ・単元ごとに、テーマ性のある英作文に取り組みさせる。 ・学期ごとにパフォーマンステストを実施する。テスト後の自己評価で、表現力が向上したと感じる生徒が７割以上を目標とする。
道徳	・道徳的な判断力が欠ける生徒がいる。	・話し合い活動を中心とした対話的な学びの機会を増やし、いろいろな考え方に触れ、理解した上で自分の考えを深められるようにする。	・ワークシートを３年間ファイルにまとめ、思考の変容が分かるようにしていく。
総合的な学習	・調べ学習で情報収集をして、新聞等に分かりやすくまとめることはできるが、工夫して発表することが苦手な生徒が多い。	・SDGsや修学旅行の調べ学習や事後学習のまとめ、文化祭に向けての調べ学習などで発表会を行うことで、よりよい発表の仕方を学習する	・投影機や視聴覚教材を活用した発表会を学級や学年で行う。